# ふるさとわがまちづくり

# 高町自治区

#### 高町の歴史

高町の地に人が入ったのは、明治時代後半に 所有権を取得した、飛島村の株式合資会社大寶 農林部から管理を任された一家が大正7年頃 に移り住んだのが始まりと言われています。そ の後昭和10年代に所有者が変わり、苧麻工場 が建設され苧麻の栽培から、麻製品の製造まで 20名ほどの人達が働いていました。しかし戦 争が激しくなった昭和19年頃からは食料確 保の為、農兵隊の人達も加わって、さつまいも を作っていたようです。

### 高町の名の由来

元々の名称は「四郷東山」で、名の示すように 四郷の里から見て「東の山」からこの名称がつけられ区域は現井上町と高町でした。昭和11年に 井上地区が四郷井上と改められ、高町は四郷東 山として名が残ったが、区としては井上に含まれ ていました。その後、昭和23年3月、29戸の東 山区が分離独立し区の誕生となりました。更に年 を経て、昭和42年猿投町が豊田市に合併した時 点で、従来からの地名である「東山町」は、すで に高橋地区に存在していたことから、別名を付け ることになり、丘陵地であることから「高町」に従 来の東山を付けて「高町東山」としたのが由来で す。

## 高町の開拓

戦後食糧増産の施策に沿って20戸が入植し開拓が始まりました。この辺りは松林と笹が一面に生い茂り、キツネが住処としていた穴が多くありました。開拓には大変な苦労を重ねて一家総出で麦、スイカ、さつまいも、大豆等の栽培から始まり葉タバコ、果樹へと範囲を広げながら、昭和30年代には酪農へと変遷していきました。しかし昭和40年代頃からは高度成長の波に乗り、2代目はほとんど勤めに出て兼業農家が多くなると、一般住宅も新家を中心に



増加し住宅地域へと変貌していきました。

#### 地域の変貌

昭和60年から、東南地区に豊田市運動公園の建設が始まり町の様子が一変し、更に西地区には福祉村の建設も始まり、町の約50%は公共施設が占めるようになりました。そして春夏秋冬を通し、多くの市民が集まるスポーツの町、福祉の町として賑わいを増していきました。

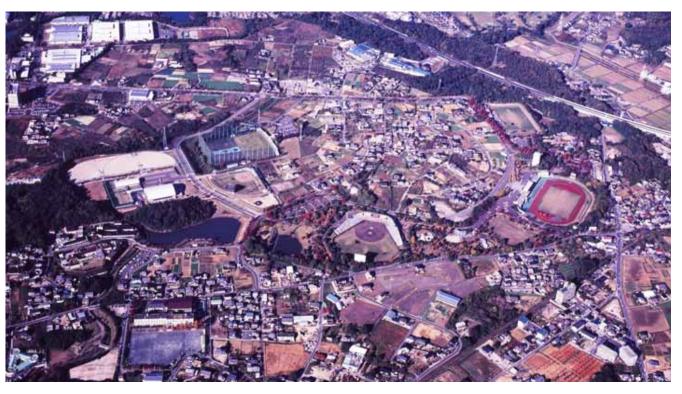
#### 高町のまちづくり活動

高町のまちづくり活動は、「住民同士の交流を通じ心豊かに」をキャッチフレーズに、市のまちづくり活動費補助制度を使って、平成15年からスタートしました。テーマは、「安心して住める町づくり」「健康に過ごせる町づくり」「潤いのある町づくり」「健康に過ごせる町づくり」「潤いのある町づくり」です。具体的には、「健康づくり」「ふれあいの場づくり」「四季の花作り」を継続して活動しており、その成果としてログハウスの建設、公園内の花壇作り、調整池の周りには、桜を植樹するなど形になって残っています。このまちづくり活動の主体は、従来から活動しているインフォーマルグループです。壮年層のヒューマンクラブ、中年層の高友会、女性層のつむぎの会そして老人クラブが各年齢層をカバーし、それぞれ自主的な活動と連動させながら活発に行動しています。

#### 高町の将来

高町の世帯は現在159戸、アパート等63戸とこじんまりした区です。その特長を生かし、みんなが参画でき、ふれあいのできる活動を継続し、更に安全、安心、健康なまちづくりに努めていきたいと思っています。

# 高町の風景







## 高町自治区データ

(H19.4 現在)

設立:昭和23年3月世帯数:159世帯

45世帯(昭和51年度)

人数:約600人 組数:10組 面積:0.67Km

自治区たより:「たかまちだより」年4回発行

回覧:月2回

ちびっ子広場:1箇所 ふれあい広場:1箇所 防犯灯設置箇所:59箇所 小学校:四郷小学校区 自治区会館:高町区民会館